

小学校第4学年 造形遊びをする活動と、相互に関連する鑑賞の活動

【学習の方向性】
 ○材料や場所などを基に造形的な活動を思い付き、工夫してつくる。
 ○活動したことや表現したもののよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。**【A表現（1）ア（2）ア】【B鑑賞（1）ア】【共通事項】**

【題材名】

光とかげから生まれる形

～材料の形や光の色を組み合わせ、おもしろいかげをつくってみよう～

【題材目標】
 ○自分の感覚やかげをつくる活動を通して、形や色などの感じが分かり、身近材と光・かげを組み合わせるなどして手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくるようにする。
 ○形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、材料と光・かげ、場所などを基に、造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えるとともに、自分たちの表したものの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げるようにする。
 ○進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。

【題材の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚やかげをつくる活動を通して、形や色などの感じが分かっている。 ・材料と光・かげを組み合わせるなどして手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくっている。	・形や色などの感じを基に、自分のイメージを持ちながら、材料と光・かげ、場所などを基に、造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている。 ・自分たちの表したものの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。

本題材における〔共通事項〕の捉え

ア自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。
 イ形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

自分の感覚やかげをつくる行為を通して、材料と光・かげなどを組み合わせたときの形や色の感じが分かり、形や色を基に、自分のイメージをもつ。

	活動	具体化した評価の例 【評価方法】	知 技	思 判	主 体的
1	○材との出会い ○身近な材料を組み合わせ、かげのかたちづくりを楽しむ ○できるかげの形や色の感じを見つける	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">知・技</div> ・自分の感覚やかげをつくる活動を通して、形や色などの感じが分かっている ・材料と光・かげを組み合わせるなどして手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくっている 【観察・写真記録】	↓	↓	↓
2	○かげの組み合わせ方や色を考えて、かげづくりをさらに楽しむ ○活動したことをお互いに見合う	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">思・判・表</div> 材料と光・かげ、場所などを基に、造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている。造形的なよさや面白さなど感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている 【観察・写真記録】 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">主</div> 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている 【観察・写真記録】	↓	↓	↓

研究内容についてのふりかえり

1. 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

★本題材の題材目標を達成するための評価規準の設定やそのための指導や評価は適切であったかを子どもの具体の姿から見取ったことをふりかえります。

★本題材における3つの工夫と1つの視点（出あいの工夫、場の設定の工夫、共感的支援の工夫、小中一貫の視点）がどうだったかを子どもの姿からふりかえります。

★〔共通事項〕の捉えと、そのための手立てがどうだったかをふりかえります。（3つの工夫と1つの視点の中でふりかえてもよいです。）

★本校として、題材の位置づけや価値が適切であったか、他教科とのつながり、地域との連携など持続可能か、授業改善とともに、ふりかえります。

2. 「主体的で・対話的で深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

★造形的な見方・考え方を働かせて主体的に活動に取り組んだり、材や友達との対話から形や色を基にイメージを広げて活動したり、工夫したりする姿が見られたか、三観点の資質・能力から振り返ります。

「造形的な見方・考え方」（指導要領解説 P.11）とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。

★「主体的な学び」のための授業改善の視点

自分なりの思いや願いをもち、その実現のために試行錯誤を繰り返しながら、積極的に表し方を工夫したり、作品などの鑑賞に意欲的に取り組んだりすることを通して、自分の変容を実感できる主体的な学びになっていますか。

★「対話的な学び」のための授業改善の視点

材料や作品、活動を見つめる中での自分との対話や活動の中で考えたこと、感じたことを友人と伝え合うことを通して、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりできるような対話的な学びになっていますか。

★「深い学び」のための授業改善の視点

「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び、鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させて発揮している深い学びになっているか。